

# 乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO. 10

2014.9

HER2

## 乳がんの腫瘍マーカー

この「乳がん高度検診・治療センターNEW-す」では乳がんについての最新トピックスを主題とするように心掛けていますが、そうでなくても患者さんの誤解の多い事項についてもとりあげることになっています。過度の期待を寄せられがちな検査のひとつに腫瘍マーカーがありますので、今回は乳がんの腫瘍マーカーについて、その有用性と限界について解説します。

腫瘍マーカーとはがんが作る物質、またはがんが生体が反応して正常組織が作り出す物質と定義され、血液や体液などの中に含まれます。乳がんではCA15-3とCEAの組み合わせで測定されますが、その他NCC-ST-439やHER2なども必要に応じて測定されます。採血時に他の検査項目と同時に検査でき、負担も少ないので、乳がん術後定期的に測定されるのが普通です。

ただ、乳がんに限ったことではありませんが、腫瘍マーカーは決して万能の検査ではありません。乳がんでは腫瘍マーカーを測定する意義は以下のように要約されます。

1. 早期の乳がんでは上昇することはまずないので検診や早期発見には役に立ちません。
2. 乳がんが診断された時点で腫瘍マーカーの上昇があれば、遠隔転移（骨や肺など離れた臓器への転移）の存在を疑い、そのための諸検査が必要になります。
3. 術後の経過観察中に腫瘍マーカーの継続的な上昇があれば、再発すなわち遠隔転移を疑い、すみやかにCT、MRI、PET、骨シンチグラフィなどで精査を進める必要があります。ただ、再発しても腫瘍マーカーの上昇を伴わないことも少なくありません。
4. 再発と診断された乳がんでは腫瘍マーカー値が上昇しておれば、その後の薬物療法（抗がん剤治療、ホルモン剤治療、分子標的治療）による治療効果の判定に有用な指標となります。ただし、その場合でもCTやMRIなど画像での評価が優先され、腫瘍マーカーの動きはあくまで補助的な位置を占めます。

なお、腫瘍マーカーが軽度上昇したからといって必ずしも再発を意味するわけではなく、良性疾患でも高くなる場合があります。

このように血中腫瘍マーカー測定は簡便で有用な検査には違いありませんが、その限界を知った上での運用が求められることを強調しておきます。

詳細は乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。



KAZUKA

NCC-ST-439

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

